

世田がや町総連だより

第7号

発行 世田谷区町会総連合会
 世田谷区代田5-35-29
 発行人 会長 白石 博
 編集 情報誌編集委員会
 編集委員長 渡辺 三郎

御挨拶



世田谷区町会総連合会

会長 白石 博

まる思いです。

私微力ではございますが、精一杯努力し、その任を全うし、また皆様のご期待にお応えしたい心境でございます。

ます。

どうぞ前任の三田会長同様、ご支援ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

退任にあたって

世田谷区町会総連合会最高顧問

三田 隆真



ない、我々の世田谷区町総連のことは我らが責任であり、責務であるから立派にやり通さねばならない、と互いに手を取り合って固く誓った。それでは会長は誰にするかとなったとき三田がやってくれと声が出た。大丈夫かと誰かが言った。すると、皆で出来るだけ協力しようと言う人がいて、私が何も言わぬ間に私にやってくれとの決まりとなっていました。

私が初代の先生のことをかくのは、今迄何も書いてはいない、申し訳ないと思っただからです。

さて、此のことは別にしても心臓に接続する血管の不具合のため私はペースメーカーの植替をし、約一ヶ月後退院、順調だったのに耳が遠くなり、物忘れ、記憶喪失、言おうと思いがら自分の言葉も忘れ、死にたくなる思いでした。然し、平成九年六月なかばには六割ほど快復して来た。私は後事を白石さんに頼みたいと思っていたところ正副会長会で次の会長をきめ

謹んで新年の御祝詞を申し上げ、併せて皆様方の御多幸をお祈り申し上げます。平素は、当連合会に対しまして特段のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私、昨年七月の総会におきまして、三田会長の後を受け世田谷区町会総連合会の三代目の会長に就任いたしました。

住民の福祉推進等のため、多種多様の活動を続ける連合会の内容を考えますと、その任の重さに身の引きし

平成四年二月二十五日、初代会長であり区町総連の

創立者でもあられた大場会長さんが突如幽冥の世界に赴かれたとの知らせに、我々副会長は急ぎ会長のお宅に駆けつけ御挨拶もそこそこに直ちに葬式の際に誰がどの様にしたらよいかを、そして何も手伝うことがないときは参拝葬儀の列に参入して謹んで香を呈すしか

世田谷地域

三宿町の沿革

三宿北町会会長 小松原 弘一

三宿町は九万五千有余坪を擁し中央を貫流する烏山用水を境に、南部を本宿、南宿といい、北部は西方より中央に高地があり、その裾の烏山用水と北を流れる北沢用水に囲まれた凹地に展けたところを北宿といい、本町会はこの五万余坪の

地域に組織されています。本町の名はこの三つの宿からなっているので三宿というのであります。尚、東は池尻町、西は太子堂町、北は下代田町、下北沢町、池尻町の一部に接しており、烏山用水と北沢用水は町内五番二号で合流して、下流

るため、一同一室に集まり先ず安田副会長が、連綿として私の病氣と体のことを心配されて、私に生命の大切さ、病氣の哀れさを含めて解き続けられたことは心底嬉しく終止忘れられない。友人の真心と深く心に刻み込んでおきましょう。

ころ、白石博さんの名が出て私の後は心よく引き受けて貰えるなと思いました。そのときは私の頭がスツツとしました。心底嬉しく涙が零れそうでした。快く引き受けられた。白石会長は清廉潔白で温厚篤実な方です。皆さんも新会長に出来得る限り精神的に支持して下さいよう念願いたします。

に至り、目黒川となり品川湾に注ぐ。この兩用水は近代に至るまで、その沿革の水田幾百町歩の灌漑の用に供せられたものであります。北宿は大正九年、耕地整理が行われるまでは全くの田圃で、三宿神社と共同墓地、それに高地南面に坊城邸があったのみであります。昭和七年十月、市郡併合し大東京が建設されるや、世田谷区三宿と改称されるに至り、三宿町会となりました。当時の教育機関としては、世田谷中学校（現在世田谷学園）、第二荏原小学校（現在三宿小学校）があり、近隣町村の子弟の教育の場にあてられておりましたが、既存の施設では収容に困難となり、昭和八年、北宿の高台に多聞小学校の新設を見るに至りました。すでにこの時東亜の風雲急を告げる状態にあり、同年八月、帝都防護団の組織がさげばれ本町にも世田谷防護団第四分団が設置されて、戦時態勢に入りました。昭和十年当時、物資の配給制度はすべて町会により



町内の消火器訓練

為されたので、その処理上、三宿町を南北に二分しましたので、三宿北町会として独立して自治を行うようになりしました。昭和二十年四月二十五日、敵機の焼夷弾攻撃により本町のほとんどが灰塵に帰し、一夜の内に、瓦礫の町と化してしまいました。そのために住居をなくした人々の大半は他へ居を求めて転出して行きましたが、残った人々は焼トタンを集め、バラックを建て、焼けあとを

整理し、自家菜園を造り、食糧対策を講じ、暗黒の内に復興に意欲を燃やしたのであります。同年八月、敗戦による終末を迎えアメリカ軍の占領政策は、町会組織の解体、隣組の廃止と民間の自治体にまで及びました。昭和二十八年、民間自治に対する政策の緩和がなされると聞くや、有志相計り團結による復興促進をと、過去に於ける制度とは全く異なる新しい構想のもとに、民主的運営を目的とした三宿北町会を設立し現在に至りました。昭和四十一年、行政区画の改正に依る住居表示の変更に依り三宿町を改め三宿二丁目何番何号と呼称することになりました。さて、現在は災害に強い町づくりの一環として防災訓練を行い、防災対策の充実を図ると同時に、我々住民一人ひとりが「自分達の町は自分達で守る」と言う心構えを持ち、会員相互團結のもとに、明るい町づくりに励んでおります。

最近の動き 三題

太子堂二丁目町会

会長 清水庄太郎

一、災害弱者等の登録制度 発足

(1)趣旨

この登録制度は身近なま
ちづくり防災部が起案し、
各町会長を中心に地域を挙
げて取り組み始めた「災害
弱者救援対策」です。

これは、阪神大震災死者
の約八割が高齢者や障害者
などの「災害弱者」に集中
した教訓から、隣近所の日
頃の助け合い体制の重要性
が見直されたためです。

(2)登録制度

各町会では、七十五歳以
上の「ひとりぐらしの老人」
と「夫婦のみの世帯」のほ
か、年齢を問わず身体障害
者や看護を要する人などの
登録制度を発足、十一月末
日までに賛同者の名簿作り
を進めています。

(3)登録名簿管理者と秘密厳 守

名簿管理者は、各町会長、

防災部長、民主委員総務な
どと定めています。また、
個人の秘密は厳守としてい
ます。

各町会では、人々が安心
して住み続けられる街を目
ざしながら、相互助け合い
運動に取り組んでいます。

二、町内著名人からの寄稿
を戴くミニコミ紙「わが
街 太子堂 三軒茶屋」

この十一月十五日に発行
した第九号(通算二四号)
には、女優の東ちづるさん
から「住んでよかった!」
という寄稿がありました。

「:去年から妹とその家
族たちもやって来た。家族
全員がこの街にお世話に
なっている。」

もはや、太子堂は心の故
郷というレベルではない。
この街とのお付き合いは、
100色カラフルセットになっ



会長を中心に編集会議

間三回発行。B4両
面刷り。印刷を除く
全て委員による自主
的な編集を続けてい
ます。

三、文部省指定の
「地域連携モデル
地区」に選ばれた
太子堂・三宿地区

このたび「平成九
年度文部省指定・い
じめ対策地域連携モ
デル地区」として、
全国二十九市町村の
教育委員会が指定さ

れました。東京都では世田
谷区教育委員会が指定され、
区の中から太子堂小・中学
校、三宿小学校地域が選ば

れました。

去る十月二十日、推進委
員会「第一回全体会」が開
かれ、区教委指導室をはじ
め地域関係団体代表委員六
十名が参集して趣旨説明を
聞き、「豊かな心を育てる
地域連携世田谷プラン」推
進委員会が発足しました。

さて、全国都道府県の中
の東京都から世田谷区教委
が指定を受け、さらに世田
谷区の中から太子堂・三宿
地区が「指定連携モデル地
区」に選ばれたことは、平
素の諸活動に対する評価を
得たことにはなりません。
推進への今後の活動が期待
されます。

ていくだろう。
太子堂に住んで良かった
!」:と。
太子堂の町内に居住され
る著名な方々からは、既に
次の方々も寄稿されていま
す。(順不同)

俳優の近藤正臣さん
俳優の山口 賢さん
歌手の大川栄策さん

落語家の林家木久蔵さん
作家の佐藤愛子さん

太子堂のミニコミ紙の紙
面に彩と華と親しみを添え
て載っています。なおミニ
コミ紙の編集委員は各町会
から二名ずつの十四名。年

新任ご挨拶

三軒茶屋町会会長 山田 幸

今年六月の総会に於いて、
故山本正次氏の後任に凶ら
ずも選任されました。今後
とも宜しくお願い申し上げ
ます。

山本氏は九年間に亘り、

三軒茶屋のために、就任以
来身をもって多大な功績を
残し、町のために働き続け
られ、他界されましたが、
その業績を継続していかね
ばなりません。

私共の町会は太子堂出張所管轄の一丁目(二、七二二世帯)、若林出張所管轄の二丁目(三、三九五世帯)と行政地域が二つにまたがっているという悩みもありますが、町会の皆様方と共に明るく住みやすい町、三軒茶屋へと邁進しつつあります。

身近なまちづくり推進協議会の中の健康増進部会、生活環境部会、緑化まちづくり部会、安全防犯部会など、役員の方々、会員の皆様と共に進めてまいりたいと思います。

年々高齢化に伴う福祉問題、災害に強い町づくりと色々ありますが、町会会員



大山街道の碑

意見を伺いながら物事を進めていきたいと思えます。

私も微力ではありませんが、地域社会の発展に寄与する覚悟であります。



町内のやすらぎの場・ポケットパーク

の皆様とともに、明るく住み良い町を目標にして日々努力していく所存でございます。

なるべく多くの方々のご

私達の街づくり

世田谷二丁目会会長 **河原 春雄**

創立三十五年を迎えている私達の町会は、歴史と伝統の上に築かれた手造りの街であります。

大先輩達の苦勞と努力によって打ち立てられたこの街を、よりよい住み良い町会に育てあげるべく役員一同一致団結して意を新たにしています。

次第です。

多様化された社会情勢の中で既に少子高齢社会の問題をはじめ、この先二十一世紀に向かって、どう対処して行くべきか、教育や福祉の問題など身近な問題として考えて行かねばならぬことばかりです。

さて、私達の町会を中心部に桜通り商店街があり、活気に満ちた、まとまりの

良いことが運営上の利点であり、役員の一入ひとり街づくりに意欲を燃やし、率先して総ての行事に取組んでくれる、それが何より町会の運営を向上させる要



資源回収作業

因であります。

世田谷二丁目町会では特に力を入れている事業が三点あります。

先ず第一に資源回収事業

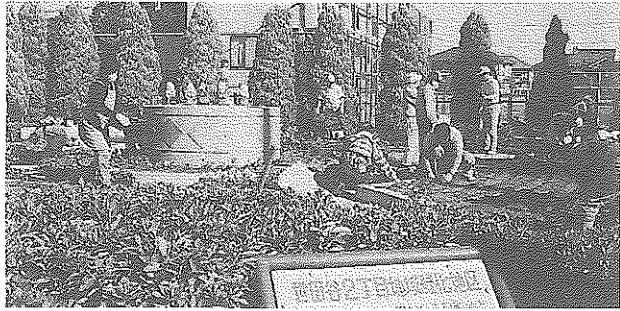
です。

毎月第二・第四の日曜日、リサイクル部員は十五名、朝は八時半から作業が始まる。集積場所は約十ヶ所、軒先に出す家庭も多数あり、部員は手分けをして五名一組で台車を用意して梱包を始める。新聞、雑誌、段ボールと分類別に整理する。梱包の技術もなかなかのもので、熟練を要するもの。最終的には一箇所にまとめて積み上げる。台車三台、リヤカー二台、軽トラック一台で行っている。回収量は一回十トン、一月二回です。

その他、アルミ缶、スチール缶、空ビンと資源の再利用に全面的に協力をしております。

作業は概ね正午迄、食事は手造りで、おにぎりをつくったり、うどんをゆでたりして昼食をとり、其の後はフリートーキングで話し合いの場をつくり、情報交換や行政への要望事項など、意見発表の勉強会がはじまり約一時間で終了します。

第二は環境づくりです。町会では二丁目二十二番



世田谷2丁目地域緑化地区の賑わい

地、世田谷通り沿いにある花壇約三〇〇平方メートルについて区との緑化協定を昭和五十八年二月に結び、その後年に二回の花植えの作業が始まった。植替えの時期には町会役員と有志、高齢者クラブの有志約五十名で行う。花壇としては区内第一であり、中心部には円台植えに七人の小人と白雪姫の可愛らしいお人形が並んでいて、子供達の人気者である。花植えは役所で手配してくれるので有り難い。花壇には写真を撮りに

くる人、写生に来る人、保育園の園児達など仲々の賑わいである。

植替え時には、隣の広場で防災訓練、C型ポンプの放水訓練、婦人部による炊き出し訓練が恒例になっている。こうして二丁目町会の花壇は近隣町会住民の憩いの場とし喜ばれております。

何とかならないか 駅前の放置自転車

宮坂一・二丁目町会

副会長 松岡 茂二

私どもの町会は町会行事のほか、経堂出張所地区身近なまちづくり推進協議会のもとに「三つのクリーン作戦」を目標に活動しています。三つの作戦とは、①放置自転車追放の啓蒙、啓発活動、②ゴミ出しルールの徹底、③街の美化です。中でも放置自転車の追放については各地区ともに難題

としますので、その実情を報告します。私達は小田急線経堂駅周辺を重点的に月一回クリーンキャンペーンを実施しています。当日は警察署、出張所職員、協議会加盟の八町会、商店会、PTAの人達二十名から三十名が朝八時より約一時間ティッシュペーパーの配付。その間区

第三は防災訓練。災害は命にかかわる問題であり、何時何処にどんな規模でくるかわからない。阪神淡路大震災は何よりもの教訓である。私達は常に心の準備をし、総ての訓練に参加し、いざという時に慌てないように町会あげて防災に備える心構えであります。

役所の職員が前日撤去警告書を貼り付けた自転車の強制撤去を行います。また、夕方四時より一時間のキャンペーンも実施しています。撤去しても夕方になれば元の木阿弥です。経堂駅周辺には南北二個所の区営の駐輪場があります。駐輪場も収容台数が少なく、場内を安全歩行出来る範囲で通路まで駐車されています。朝七時五十分から八時過ぎには、満車のため入れない状況です。利用者のほとんどは世田谷通り近辺の人が多く、バス運行の不安定のため自転車を利用し小田急線に乗り継ぐ通勤通学の人達です。駅周辺の駐輪は小田急線利用者が大半を占めているのが実態です。現在、小田急線は輸送力増強の複々線化工事で、高架作業も進捗しているが、将来完成すれば都心までの時間



経堂駅前の放置自転車

災害時の避難路の確保、救急車、消防車の緊急活動の妨げになることもなく、かつ美観も一挙に解決するのではないのでしょうか。鉄道を足としている地元住民のための駅周辺の「街おこ

は大幅に短縮される反面、放置自転車は益々増えることが予想されます。高架完成後はその下に駐輪場を設置し、広く一般利用に供することが出来れば歩行者が安心して通行が出来、また

し「地域発展」のために高架下の駐輪場設置に、鉄道会社の理解と協力をお願いし、調和のとれた住みよい経堂地域をめざして活動したいと思っております。

平成八年十一月、経堂駅周辺街づくり協議会が発足

し、街づくり勉強会を通じて駅前広場計画、高架下利用計画等について検討がなされつつあります。地元協議会の意向が関係諸庁に十分理解され、駅周辺整備事業に反映させていただきたいと思えます。

回覧随想

上馬東町会会長 西巻 一雄

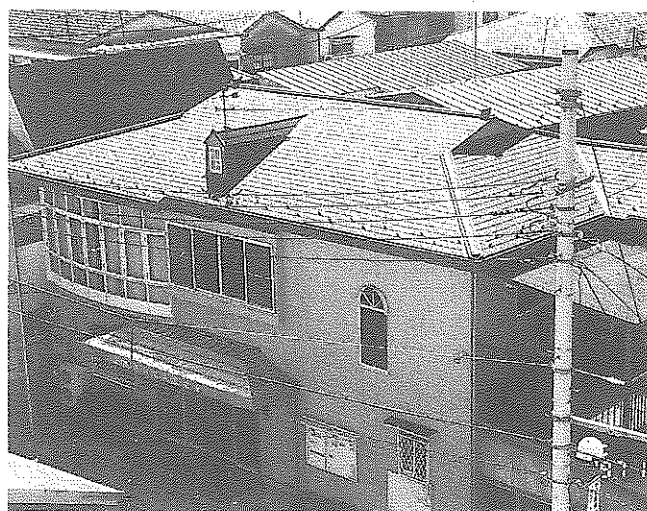
だいぶ前の事ですが、町会長が集まった席で、「私は騙された」と大きく叫んだ人がいました。気苦勞に對する報われ方が期待外れだったのでしょう。富士静悦さんが初代の世田谷総合支所長として在任中、町会長の集まりに臨席した会場で、目の前の人が突然倒れてショックだったと話されました。その時、回覧の数が話題となり依頼されて調べて報告した事があります。

因に平成八年度の当町会へ行政の各方面から依頼され

た回覧の件数は六十でした。回覧の依頼は不定期に町会長宛てに届けられ、急を要するものもあるので神経を使います。月一回の町会役員会の時に手配するので機を失する場合も生じます。当町会では十五人の地域部長と約二〇〇人の地域班長の組織力で回覧の緊急度に合わせて随時配布し、町会作成の回覧も併せて添付するようにしています。

町会と町内居住者との平常の接点は回覧しかないの

で、お願い等は具体的に何



諸活動拠点「町会会館」

度も繰り返すようにしております。その実績の例では、アルミ缶は平成元年度は約五〇〇キロだったのが平成八年度は三、一〇〇キロに達しており、また回収品目も逐次増やして世田谷区が扱っている再利用資源九品目の総べてをクリアーして、年間の回収量も一八〇トンに達するようになりました。

また、永年に亘り廃品回収の売上代金と助成金を積み立てておいたので、町会の会館の改築資金に大きく寄与しました。

自治法の改正で当町会を地縁団体として認可申請するに当たり、町内の人口約七千人に対しその半数以上の名簿作成を求められましたが、回覧を利用して各戸で記入してもらい、諸手続きを経て平成六年一月区長から認可され、土地、建物も町会名で

登記して町会の財産保有が万全となりました。

区長の指針の一つの「寝たきりゼロ」に對して「地域の支え合い活動」に当町会も応募し、幸いにモデル地区に選ばれました。平成六年度より町会会館の施設を利用して毎週火曜日の「いこいの日」と、第一・第三木曜日に「健康体操」を行っておりますが、高齢者などなたでも気安く参加頂けるよう、随時町会発行の回覧でご案内するようにして、町内のお年寄りの外出の機会を増やし、交流の輪が広がるようにしております。



地域の支え合い いこいの日

北沢地域

町会長になって思う事

梅丘一・三丁目町会

会長 西 信義



西会長 (中央)

小田急線梅丘駅と区役所を結ぶ中程に位置する商店街のない、緑多き閑静な住宅地、二千世帯の町会です。ご多分にもれずマンション、アパートが急増して会員数は五十%台に落ち込みました。行政に精通していた先代会長はリーダーシップを発揮されていましたが、惜しくも病に倒れたため、会長ほか各理事の推薦を受け、止むなく役職を仰せつかって六年、当初は行政機関等の窓口手伝いか、ボラン

ティア程度に理解していたものが、奉仕を越えた重責には、この他大変な労作業であると痛感する昨今です。

特に私共の町内には区立の小・中学校、都立高校四校と、隣接する小中高、大学校とに囲まれた、文教町会とも言えるほど学校当局の行事、交流が誠に多繁であります。

故に環境問題と防火、防犯には役員一同大変な気配りが必須で、対策に苦慮しています。幸いにも町民の意識が高いのか、「より住み良い安全な我が町に」との誇りを持っておられるようです。従って犯罪数も少ないとの北沢警察署の談話もあり、火災予防にも世田

谷消防署から無火災町会として五年の表彰を受け、只今年九年度の記録を更新中であります。然しながら、アパート、マンションの急増に伴って環境の変化、防犯、防災に一段と対策を練り直さなければならぬのが現状です。



町民研修旅行

残念な事に高齢化が住むにつれ、若手の人材不足は「いずこも同じ秋の夕暮れ」だと思えます。年間の行政当局諸機関の行事を消化するだけで目一杯の中にあつて、他地域の先輩町会長さ

ん達は昼夜を厭わず報われる事の少ない奉仕活動や行動力には「良くやるもんだ」と感服し尊敬の念を強くします。これは我が町を良くしようとする使命感？正義感？それとも郷土愛から来るのだろうかと考えさせられます。ともかく良い点、役立つことは見習いたいとばかり乏しい予算を工夫しながら次のような行事をスタートさせました。

- 一、毎年一回の町民研修旅行を定着させて親睦を深めています。
- 二、月一回の日曜早朝に遊歩道清掃(一年間延べ参加者四百名)を励行
- 三、テニス愛好者を募り、一二〇名のメンバーで毎週一回の交流を深めています。

四、地元消防団の応援と、若手婦人の協力を得て区民消防隊を編成し、訓練を重ねています。

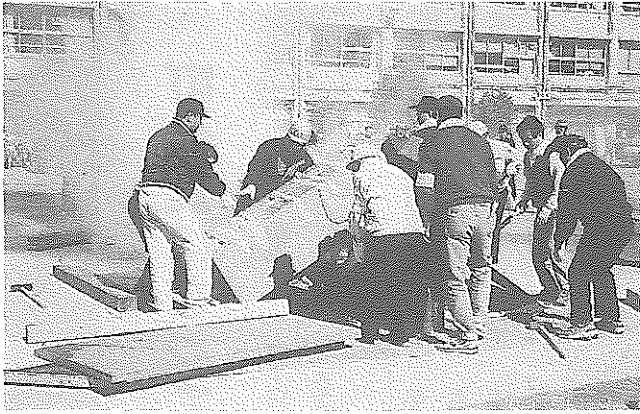
五、区リサイクル課の指導のもと、リサイクル拠点を設け、目下のところ拡大協力を呼び掛けています。

以上のように遅蒔きながら、動き出したのが実態です。住宅地という地域性もありませんが、組織力はまだまだ軟弱です。人材確保と組織の充実を図り、地域に即応した活動と、平和な心の通った町づくりを目指し、町会総連合会諸先輩のお知恵と指導を頂きながら参りたいと願う所存でございます。

我が町代沢五丁目

代沢五丁目町会会長 金丸 金之助

まず我が町代沢五丁目をご紹介しますれば、以前町名は北沢一丁目、南は淡島通りまでの広範囲な地域を占め、昔は西山谷と言われた所であるが、住居表示の改



倒壊家屋からの救出訓練

筋を通した対応と処置をモットーとしております。又、抱負を述べるならば、役員は町内各人との一体化を常に心掛けることが肝要で、機会ある毎に意見希望を聞き、改善に努力いたし明るい住みよい町作りに力を注ぎたいものと念願いたしております。

なお、当町会では回覧を通じての各種情報、協力依頼等も

正で北沢川緑道以北、下北沢駅南口商店街への入口迄に縮小されて現在の町名に至りました。幼き頃の記憶では、西は鎌倉街道をはさんで代田との境で(現在も同様)東へ丘陵地の住宅地を下り、平坦な畑地が多く、旧家の点在する光景が見られ、北沢川には魚も住み、夏には蛍が飛び交い、茶沢通りも牛馬車が往来するのどかさ自然が一杯残っておりました。しかし、今や住宅で埋めつくされ、環七道路の開通、車の増加等に

より空気も大分汚染されている状況です。

さて、永年会長を勤められた阿川稔太郎氏の辞意固く、平成九年度の総会決議で図らずも私が後任会長として選ばれました。役員、副会長と順を追っての経験は僅か五年にて、基本的な年間の諸事業運営については、概ね理解したものであると思いますが、何分にも経験浅く、細かい事柄については勉強と先輩諸氏に学ばねばと念ずる次第です。

私の信念として、何事も

隨時流しておりますが、その一つとして例年北沢地区では、しのび込み、ひったくり等盗難件数が多いので、所轄警察署と連絡を密にして、当町会を中心とした周辺の具体的な盗難実情件数等を聞き、注意を喚起するよう回覧に載せると共に、警察、パトロールの強化を要請しております。

最後に今一番腐心しております事は、阪神淡路大震災を契機に防災機運が高まっているものの、一般住民の防災訓練への参加意識が極めて低い実情です。何とかあの戦時中空襲に対する危機感を持ち、隣組全員が消火訓練に励んだ意欲に似たものをひき出せないかと苦心しているところであり、地震予知は難しい、出来ないとの報道がありましたが、何時起こるか分からないならば、なおさら初期消火、老年者の救出等々皆が訓練により体得せねばならぬものと存じます。戦後平和な暮らしに慣れ、意識も低下したのでしようか、誠に憂うべきことです。

以上新人町会長として、重ねて先輩方のご指導を切当町会のご紹介かたがた抱負の一端を述べましたが、

にお願ひ申し上げる次第です。

「まちぐるみ運動会」をとおして

代田北町会々長
(新代田地区町会連合会々長代行) 土田 正人

新代田地区恒例の「まちぐるみ運動会」が今年も十月五日(日)管内の守山小学校で開催された。

管内十町会約八百名が参加して、連合町会、身近なまちづくり協議会、青少年地区委等で組織された実行委員会主催で第九回目を迎えた。

かつての、中高年運動会と子ども向けレクリエーションを合併し、一〇〇名もの実行委員の働きにより実施され、「文字どおり」まちぐるみの開催となっている。

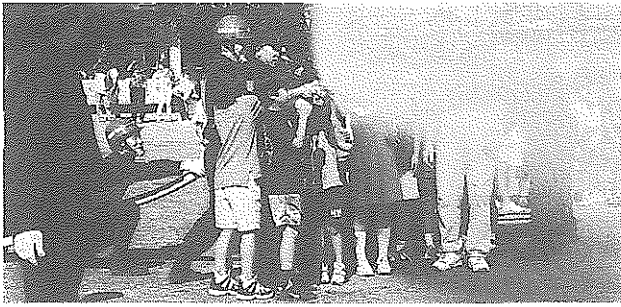
競技は地域毎に四チームに分かれ、学校で行っている定番競技のほか、親子二



人三脚リレーなどもあり楽しい休日をご過ごした。

また、最後に地元の世田谷消防団第八分団(大里義男団長)によるポンプ操作模範演技もあり、この時、子どもたちもホースの筒先を持って放水体験をするなど、防災意識の高揚に一役かっている。

当地区では、防災をはじめ、二十一世紀を担う子どもたちの健全育成等々、課題解決のためには、普段から住民相互連携の必要性が叫ばれている。したがって、



子どもたちも放水体験

年々参加者も増え、運動会をとおして住民相互の連帯感醸成に大いに役だっているところである。

なお、開催会場は、管内の三小学校(守山・代田・東大原)の協力により、持

町会長を引き受けて

北沢一丁目町会会長 月村 信勝

数年前に町会長を引き受けてから間もないころ「北沢地区連合会」の会合に初めて出席して先ず印象に残ったのは、会長会、青少年委員会、身近なまちづくり推進協議会など、もろもろの会合を通して皆さん方が常に前向きな姿勢で積極的に自分たちの住んでいる地域や街のことを真剣に考えて、少しでも地域住民のお役にたきたいといった意識の強い方がたくさんいることを知り感銘を受けました。

私自身を省みますと、お恥ずかしいことですが町会

ち廻りで実施している。

さらに、実行委員の方々の「知恵と汗」の結晶で、盛大な会ができることを新代田地区の住民は、他に自慢できることを自負しています。是非、ご見学を

長をお受けするまでは、町会の行事や活動状況に対する知識が皆無に近い状態でした。恐らく一部の地域の方々も私のように町会そのものの役割や存在をあまり意識していない方がたくさんおられると思いますので、この方々に今後どのようにしたら町会の行事に一人でも多く参加してもらえようかと考えていきたいと思っています。

町会のことには携わるようになって少しずつわかってきたことは、町会で中心的な役割を果たしているのは主に商店会の方や、地域の

中で子どもさんを介して学校関係や、何らかのかたちで青少年の育成にかかわった方々であって、人と人との密接な間柄関係から自然なかたちでスムーズに町会とかかわりあいができたのではないかと思っております。いずれにしても、これ



消火器訓練

しかし、子育てがある程度終わり、家庭での負担が軽減された方や、お勤めを定年でやめられた方に積極的に町会が主催する行事に参加してもらえたらと、折りに触れ思うことがあります。とは云っても知り合いのあまりいない組織の中に、いきなり飛び込むことは何らかのキッカケがないと入りにくいのではないかと思っております。

らの方が町会での自治活動の力強い推進力になっていくことを知りました。一般家庭や会社などにとめていらっしゃる方は、日常生活の中からは町会のこと余暇をさくのは大変難しい面があるように思われます。

私は、一人でも多くの方が町会にかかわりあいを持つことにより、自治会活動も活発になり、地域の活性化につながるものと考えておりました。役員の方々に潜在的に町会の動きに少しでも関心を持ってほしいという方がいたら一言呼びかけをお願いしています。

また、町会での具体的な活動内容も役員であっても、直接その部門のことに携わらないとその内容を知らない方が多いと思います。そこで当町会では、先ず

横の連繋を密にするために定期的に役員会を開催して各部門毎の「実施経過報告」と「予定行事計画」などを議事録に纏め役員に配布し、必要に応じて各部担当窓口の方に詳細を説明してもらうなど、情報交換を行うことにより自治活動の活性化にこころがけています。

そのほか、本年度から「町会会報」を発行して役員との紹介と動静、各部の活動状況や行事予定などを載せ、広報活動を通じて地域

住民の方に町会が拘っていることを少しでも知っていただけるように努めています。

町会長になって青少年対策、まちづくり、防火、防犯、清掃美化、福祉のことなど、もろもろの活動を通じて皆さんのことを勉強し教えていただきました。

これからも皆さん方諸先輩のご指導により町会長として地域住民のお役に立てるように努力を重ねていきたいと思ひます。

新任ご挨拶

松原一丁目町会会長 佐々木和代

今年度の定時総会にて前町会長退任により会長の指名を受け、選任されましたので宜しくお願ひ申し上げます。

前任の杉山会長は昭和三十五年より三十七年余の間、松原一丁目町会並びに地域社会発展のために多くの業績を残されました。今後は

顧問としてご指導を頂きます。

何分経験不足の新米会長で全てが戸惑うことはかり、経験豊かな近隣会長様のご指導を受けながら私はじめ

役員一同、会の発展と地域社会発展のために努力する覚悟ですのでよろしくお願ひ申し上げます。



婦人消火隊も放水訓練に参加



児童公園での訓練終了後

ましたが、来年の総会で承認を得て本格的に活動をする。

二、婦人消火隊

婦人部が主体となって組織され現在部員二十名、働き手の男性が留守中に発生した災害時に、消火活動をする。

防災部、防火部が中心となつて各役員の協力と世田谷消防署の指導のもと、第

一回の可搬式D型ポンプ操法訓練を、六月八日(日)二時より松原一丁目児童公園にて行った。

その成果として、六月二十二日(日)区役所主催のD型ポンプ操法訓練、九月七日(日)十時より松原一丁目児童公園、九月二十一日(日)松原地区防災訓練と活躍中でありませう。これからをご期待下さい。

花のあるまちづくりと防災

桜上水二丁目町会会長 高橋兼城

旧上北沢町が桜上水と上北沢に分かれ、桜上水は京王線桜上水駅から町名が生まれたようである。その地名に相応しく日大周辺から桜上水団地とつづく界限には六百本近くの桜が植えられており、春の開花時にはそれは見事で区内でも有数な桜の名所となつている。

我がまち桜上水二丁目には、江戸時代から明治初期にかけて、松沢村史に残る花の



花のあるまちづくりグループの力作

次に新しい町会活動について申し上げますと、

一、広報部を作る
現在では一部の役員さんを中心になつて活動を始め

名所であった。密蔵院の枝垂れ桜、榎本の藤、野久保の霧島つつじ、隣接の鈴木左内の牡丹園等開花時には近郷近在から多くの花見客で賑わったそうである。今でも緑丘中学校の校章に牡丹が図案化されている。町内でも草花の愛好者が多く、ベランダ、庭、家の周りと花が植えられ道行く人を楽しませてくれる。

また防災倉庫も食糧等の備蓄保管を考え倉庫に万全対策を施している。一時避難所も密蔵院と区の「土と農の交流園」と二ヶ所になり、また千坪以上の生産農地も二ヶ所もあり、四十トン以上の防火水槽も四ヶ所あるが、出来れば区の「土と農の交流園」にも水槽を作って欲しかった。広域避難所も近く日大グラウンドに変わって比較的防災にはめぐまれた環境といえる。

十月十二日松沢地区防災訓練が行われた時にいくつかの疑問が残った。(一)は区から配布の機材のジャッキは二十五センチ以上の空間がなければ使用できない、有事には近くにある丸太や角材の利用法を教えるべきである。(二)は救出救助の担架の件。負傷者は一時を争うので、毛布、雨戸等を担架に利用する方法

を教えること。(三)は三角布の使い方も常時持ち歩いているわけではない。手拭、タオル、ハンカチ、又はシート、ワイシャツ等の利用など、ケースバイケースの対応策を教えるべきである。毎年同じ防災訓練では参加者も限られてしまう。イベント形式も一つの方法、子供も大人も楽しく参加出来る方法を考えるべきではないかと思う。

生活班を担当させて頂いた私はウロウロするばかりです。まずゴミ箱づくりから始まり、テントの設置、避難所のルール作り、簡易トイレ組立、発電機の実操作等、夕方薄暗い格技室での宿泊準備に不安を感じながらも、ダンボールやごみを敷き、どれもみんなの協力が素晴らしく、何とも言えず幸せな気持ちになりました。

玉川地域

避難所宿泊体験訓練

東玉川町会

後藤 茂

去る九月二十七日・八日、わが町、奥沢出張所管内(東玉川町会・奥沢交和会)の両町会による避難所宿泊体験訓練が奥沢中学校で初めて行われました。阪神大震災の記憶も少し遠のいてしまった今日この頃、「災

害に負けない町づくり」との声が高まり、やろうという事になりました。発起人会、事務局会、実行委員会と発展し、話し合いを重ねながらもあまり準備せず本場の災害に近い状態(電気・ガス・水道が使え



炊き出し訓練

ない)でやってみることになりました。一足先に行われた赤堤小学校での訓練を見学させて頂いたりしながら……。

いよいよぶつけ本番当日、参加者の数もわからなのまま、毛布と懐中電灯を手に……消防署からお借りしたりヤカーに町会の発電機や炊飯器具等を積んで来る人達やら八十八名が集合しました。開所式の中で実行委員長さんから玉川総合支所に救済物資等の搬送依頼を携帯電話器でお願いしたり、物資を積んだ車の到着に拍手がわき上がり、とても臨場感のあるものでした。食料班、生活班、安全

食料班が用意して下さるおやつや夕食も、うまかった。星空の下での夜食も又格別、阪神大震災の映画を見たり、

応急救護訓練や発電機でもす電球の下でくるま座になって行政と参加者の話し合いをしたり、盛りだくさんの行事をこなし一日目が終わりました。

二日目朝六時起床、皆元気にお早うの声にさそわれ校庭へ。全員が仕事の手を休めてラジオ体操、今日も一日頑張るぞとばかりに。

そして朝日を浴びての朝食。五目ごはん、トン汁、おかゆ、もうお腹いっぱい、こんな気持ちで本当の災害の時も、譲り合い、助け合い、励まし合えたらいいのになあと思います。お互いの心を確かめ合い、この町に住んで良かったと思ひ、心地良い疲れが不思議にうれしくなります。これも区役所出張所、消防署、学校等関係機関の大きな御支援によるものであるの言うまでもありません。

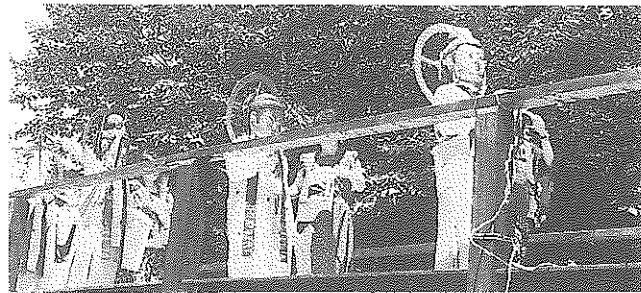
失敗も成功もたくさんあったと思います。この体験を通してまた次のステップの力になれば良いと思います。閉所式の後で行われた地域防災訓練も、多くの

方が参加し関心の強さを思い知らされました。

私は東玉川に住む幸せ者です。

我が町 九品仏

九品仏自治会副会長 猿渡之雄



浄真寺のお面かぶり

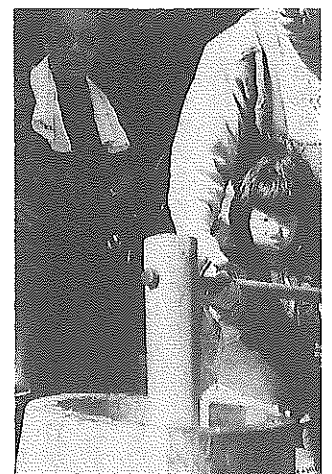
当会は、南に田園調布、北に自由ヶ丘、東に奥沢、西に等々力、そしてその中心に九品仏浄真寺があり、碁盤の目のように区画整理された住みよい所です。町の文化行事として、九

品仏浄真寺の三年に一度のおめんかぶり、毎年行われる花まつりなどがあります。この町を明るく住みよくするのは地域の自治会の役目と思ひます。

心のふれあい、語らい、お互いの努力、積極性がボランティアとしての自治会活動に必要不可欠と思ひます。

・私達の自治会活動は、毎月第二火曜日の夜九品仏地区会館にて役員会を開きます。会長が準備した議題を基にして、役員の活発な議論を経て決められ、実行しております。

町会の事業としては、九品仏地区会館の管理運営、防犯、防火、防災、保健衛生に関する事、文化の向上、会員に対する連絡、関



大会つきも子どもたちの新年 地区ミニコミ紙「鷲の谷」編集への協力。日本赤十字募金、社会福祉協議会会費募集、共同募金、歳末たすけあい募金など大

係機関との連絡協調、その他本会目的達成に必要な事業などであります。

新年早々のもちつき大会、文化財防火デーに伴う防火演習、春秋の交通安全運動の参加、町の美化清掃、リサイクル活動、夏のラジオ体操、バス旅行、敬老会のお祝品配布、ゴミ問題、緑

変な仕事をしております。

これからの地域における青少年問題やら、高齢化社会問題など難問が山積しております。行政の力を借りながら健全な住み良い町の文化、生活の文化と地域の限らない発展を夢みながら頑張りたいと思っております。

暮らしやすい町は自分たちの手で

等々力六丁目町会会長 芦萱 吉雄

私たちの住んでいる町は、南へゆるやかに傾斜している高台に広がる緑の多い住宅街を中心にして、東は自

由が丘と境を接した商店街、南方には九品仏の森が遠望でき、そして北側には目黒通りに面した十三カ国の留



学生を含む学生数二千名を越える産業能率大学、また近くに八幡中学校もあり、民、商、学、がお互いに仲良く共存しています。

町会の集まりには、商店会の皆様も多数参加し、大学の公開講座や学園祭には、地元の人たちの姿が多数見受けられます。

町の日常風景を描写して見ましよう。朝の九品仏境内でのラジオ体操から始まり、ネコじやらし公園、六丁目広場をたまり場にして朝夕の犬の散歩にお供する人たちのワンチャンの自慢

交通安全運動中のテント

町会は創立以来三十年近くなり、ともすればマンネリ化になりがちですが、世の中の移り変わりに応じて、機動的に対応することを心掛けております。何年か前に深沢地区で連続放火事件が起きた時も、私たちの町会には夜警の組織がありませんでした。即日夜警団を結成し、警察、消防当局と協力しながら住民の皆様不安を取

話、八幡中学前の広い道路沿いに、近所の人たちが丹精こめて手入れする季節の花を眺めながら、よもやま話に弾む人々、このような風景から生まれる雰囲気は、大都会で言われる「隣は何をする人ぞ」とは全く無縁のもので、ここには「暮らしやすい町は自分たちの手で」と云う考えを皆さんが持つていらっしゃるようです。また町会の役員もご婦人方が多く選ばれており、きめ細やかに、しかも積極的に活動しているのも特徴といえるでしょう。

私達の町は、氏神様の天祖神社を中心として、南に東陽山薬王院金剛寺があり、西に谷沢川が流れ、その両側、南北に長い町です。

玉川中町会区域は、中町一丁目から四丁目の一部で、全世帯約三、四〇〇世帯を数え、約一、九〇〇世帯を会員とし、玉川警察署、玉

り除くよう万全を期して参りました。高齢化社会、少子化社会、ゴミ問題など、新聞、テレビをにぎわしていることがそのまま私たちの町の問題でもあります。

玉川中町会の現在

玉川中町会会長 白井昭一

川消防署を特別会員として運営いたしております。

前会長より私が引き継いだ時点で、玉川消防署管内唯一の「住宅防火対策モデル地区」の指定を受けており、防火部を中心として、数々の防火訓練を始め、防火座談会及び各家庭の防火に対する備品等の実態調査、並びに夜間パトロールを実施し、放火されにくい状況作りが出来ていました。住民の防火に対する意識の高まりをひしひしと感じた次第であります。

▽リサイクル活動について、当町会では平成九年四月より保健環境部を中心とし

これからも皆様より親しまれ、頼りになる町会、「明るい住みよい町づくり」を会員一同目指して参りたいと思っております。



敬老会の情景

て、リサイクル協議会を発足させ、三十三ヶ所のステーションを作り、町会員のご協力を得て実施の運びとなりました。今後共ゴミの減量に努め、住み良い環境づくりを推進して行く所存です。

▽支え合い活動について 私達の町では、高齢者の方々が安心して住み続けられる町を目指して、活動を続けております。特に阪神淡路大震災以降、日頃から隣近所の助け合いが大切であると考え、そこで高齢

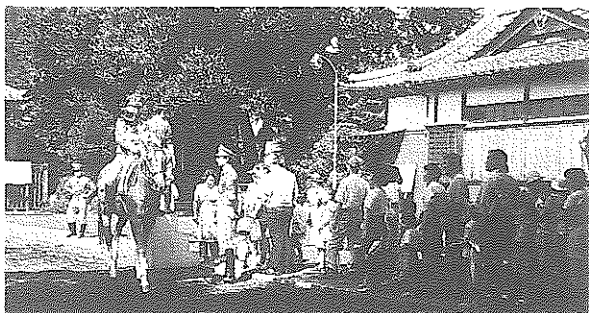
者の方々に対し、災害時に手助けをすることを目的に、玉川中町会支え合い協力制度を八年九月に発足させました。民生委員さんのご協力を頂き、この趣旨に賛同した方の登録を行ったところ、予想をはるかに上回る結果でした。対象者四五〇名で登録者三四七名全体の七七%になりました。

この実態を重視し町会執行部、第一第二防災委員会、消防団、民生委員で組織する「玉川中町会支え合い協議会」を本年九月に発足させ、高齢者の方々が安心して暮らせる町づくりを目指して活動を活発に実施して行く所存です。

次に町会諸行事を紹介させていただきます。春秋の交通安全運動期間中交通部を中心として、婦人部、近隣学校校外班の皆様と上野毛中町通り上野毛境にて、交通安全を願い努力しております。

青少年対策部により、町会近隣青年男女を対象としてソフトボール大会を実施しており、今年度で第二十

回を迎え、近隣のコミュニケーションの場として活躍しております。



交通騎馬隊も参加した夏休み子供会

恒例の夏休み子供会を天神社境内で、大人子供合わせて約四〇〇名の参加者で青少年健全育成に取り組んでおります。本年は交通部も参加し交通騎馬隊の協力により、交通安全の意識を高め楽しい子供会ができました。

町会主催による敬老会を、上野毛地区会館において婦人部や各事業部のお力添えのもと実施し、年々参加者の増加により、本年一二〇

名参加者があり、来年以降会場選びに苦労することが予測されます。

年末には消防団を始め防犯部、役員一丸となって歳末警戒を実施し、来る新年

お洒落な用賀

コミュニティ文化づくりに

チャレンジ

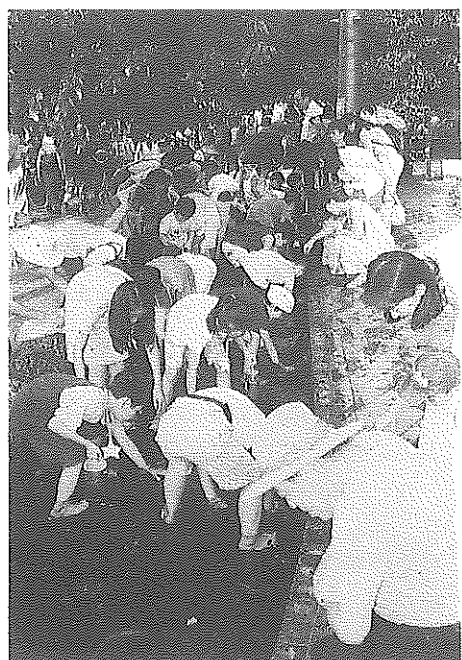
用賀町会会長 鎌田 弘一

用賀駅前に東急ビル(SBS)が完成して、はや五年、わが町は更に一変し、活力あふれる街並となり、駅を中心の町会で人口七、一九〇名、三、五四五世帯のうち会員一、四〇〇世帯で、単身マンション、分譲、賃貸マンション、ビジネスビル、商店が多いが、協力会員もいる。

智、信、仁、遊、樂、をモットーに役員、班長計四十六名で、子供、大人、老人までそれぞれの年齢層が一人でも多く顔を見せてくれるような考えで行事を進

を迎えております。会員の和を大切に、中町を誇りに思い、微力ではありませんが一層住み良い町づくりに努力して行く所存です。

① わが町会の名入りユニホーム(YOGA COMMUNITY ASSOCIATION)ピンクのTシャツ、緑のジャ



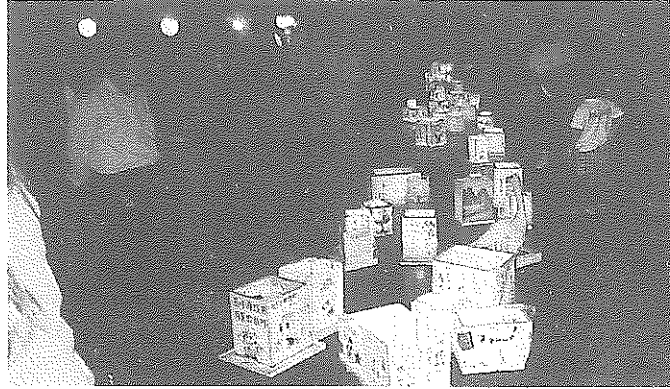
「いらか道」でのドジョウつかみ

ンパー、冬用黄色ジャンパーを着て活動する。② 日帰りバス見学会、春秋と隔年に実施。③ 商店街と協力し、盆おどり縁日出店。④ 町会独自行事として、町の中のいらか道の人工小川を利用して、納涼の夕べ。毎年八月十九日夕方より小川にドジョウを放し、子供達にドジョウつかみをさせ、夕暮れと共に廃品利用で灯籠舟を作りコンクールを行う。

芸術的、文化的、企業のPR作品、俳句、短歌、子供のマンガ等、色とりどりに何とも幻想的なひと時である。今年で四回

目である。

⑤ 長寿を祝つての敬老会、町内より募集した出演者による演芸会で楽しんでもらう。京西小学校体育館で隔年ごと開催している。これが一番大きな行事。



納涼の夕べ

校の正門に二〇メートル程の竹二本で七夕アーチを作り、地域と子供のふれあいを大切に大変子供達に喜ばれている。その他八月の灯籠舟づくり、竹トンボ、タコ作りと継続され、地域と学校と子供、すばらしい行事として今後も町会は協力する。

⑧ その他ゴミリデー、町内清掃美化、交通安全、防犯、歳末警戒、防災訓練、歩

⑥ 用賀駅前広場で用賀中学吹奏楽青空コンサートや、年末のコーラス・コンサート等、町会の新しい仕掛、大好評。
⑦ 京西小とも密接なつながりを持っている。学校

会と毎月活動行事が忙しい。特に防災用三升釜、五升釜、七升釜を活用し炊出し訓練とバーベキューの夕べ、春は竹の子飯、秋はキノコ飯と役員の慰労とコミュニケーション

は楽しみの一つである。

⑨ 大きな悩みは駅前放置自転車、車の違法駐車、これはどこの町でも同じであろうが、安心して歩ける歩道、安心して走れる車道を目指して協議会が発足したばかり。わが町会のロマン。お洒落な町用賀。きれいな駅前

町会活動に想うこと

新町公民会会長 松下 健治

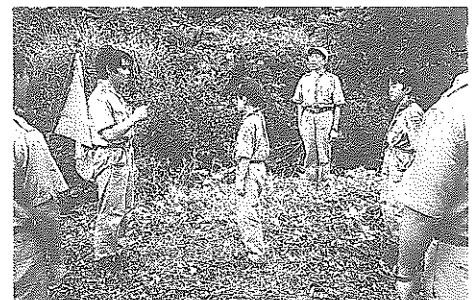
用賀にしたい。みんなが幸せな人生を考えたとき、
① シンプルに、身軽に生き、
② 感謝し、ユニークに生き、
③ ほめ合い、ハーモニーも持って生き、こんな心のお洒落で街を愛し、共に生き、会員、役員一同チャレンジします。ご支援、ご協力お願いします。

新町公民会会長をお引き受けいたしました。早くも十四年目になります。私たちの町会は東京の表玄関に位置し、産業・経済・交通の重要な位置にあり、さまざまな面で行政と一体となつて協力し災害に強いまちづくり、組織づくりをめざして、また住民の皆様とも協力して活動してまいりたいと考えております。

幸いにして当町会は住宅地及び商業地をエリアとしており、さまざまな行事に各方面からの全面的な協力を頂き取り組んでおります。特に新町公民会の伝統的な行事で三十余年続いている青少年育成関係の行事では夏休みに親と子のふれあいの屋外活動（今年にはサマーランド）を行っております。またそれ以外にも盆踊り大会や、ガールスカウト・ボーイスカウト活動の支援なども行っております。昭和五十九年四月新町地区会館の建設に際しては、故熊谷会長のご尽力で地元



青少年夏季野外活動（サマーランドにて）



ボーイスカウトの訓練

の皆様のご了解を頂き、新町地区会館で葬儀が行われるようになり、以降二百回を越える利用があつてご近所の皆様からこのような立派な施設があることを感謝されています。
玉川地域ではその後、三カ所の地区会館で葬祭が行

われるようになり、また烏山地域に区の公的葬場が二年前に完成されたことは地域住民のご理解が浸透してきたことと強く感じるものです。当地区も含め東京では自宅で葬儀を行うこと

が難しい現状を考えますと、一日も早く八十万近い人口を抱える世田谷区として、官民一体となつて公的な葬祭場、火葬場の実現に向けて取り組み実行されますよう強くお願いする次第です。

砧地域

自治会発足と現状

藤自治会会長 海保喜美子

私達がこの祖師谷を生涯の地と定めてから早いもので今年で三十余年の歳月が流れました。雨乞い伝説の釣鐘池に近く、この一帯は藤和不動産の分譲になるもので、今日のように成熟された住宅地からは想像もつかない野趣豊かな自然を残した状態でした。

昭和四十一年分譲が開始され一斉に移り住んでみると、何か核になる居住の中

心が欲しいという意見が住民間に自然発生的に生まれ自治会結成の機運が盛り上がり、名前も藤和不動産の一字をとつて藤自治会としてスタートした次第です。同時に世田谷区町会連合会砧地区のお仲間入りをさせていただきました。

当時は子供達も育ち盛りで地域は活況を呈し、会社人間の夫族は家庭や地域の事はすべて妻にまかせ、自

治会の運営も女房族が主流となり現在に至っているものです。自治会の組織は会長役を除き全世帯(二四〇)を九班に分け、各班から一人ずつ世話役を出し、一年毎に交替する仕組みです。全世帯の輪番制です。地域での関わり合いは濃からず薄からず、淡い関わりをモットーとすることが発足以来の慣行で、永い間「和」を保っている理由でしょう。家を新築したり、持ち主が変わったりして新陳代謝もあります。若い人も旧い人も同条件で自治会に関わります。回覧物の伝達は主要な役割です。

会長宅での常会では環境、防災をはじめ時評を混えて多彩な話題に花が咲きます。地域での防災訓練も全員が体験出来るようになります。消火器の全世帯への設置や防火用品の備蓄等各戸が心掛けて

—投稿—

統一教会成城進出を巡る 地元町会の活動

成城自治会会長 高橋 玄

平成七年十月、子供連れの女性が近隣を挨拶回りして成城七丁目の故著名歌舞伎俳優の妻所有の敷地一三五坪、建坪一一四坪、築後四〇年以上の古い木造二階建てを、家賃百万円で借り転居するので宜しくとのことであったそうである。この古家に百万円の家賃ということで近隣の人々はかなり疑問をもったそうだが、その後統一教会が、ここに成城教会を建てることになり、オウム教のサリン事件の印象がまだ強烈だった時でもあり、成城が町ぐるみ騒然となり、ただちに二万名の反対署名があつたり、東京都、世田谷区に陳情、平成八年三月二十八日区議会で「区は全力を挙げて解

決するよう努力されたい」と採択された。

「統一教会成城教会を断固阻止する会」が結成され、爾来建物の改築阻止のため二四時間体制で敷地の回りを自家用車でかこみ、町中に反対運動の看板が貼られ、毎日拡声器による、シュプレヒコールが流され、町の環境は全く破壊された。

地主の人の協力がえられ、東京簡易裁判所にて即決和解が成立、相当金額の立退き料の支払いを条件に統一教会は平成九年十月末に成城を撤去すると聞く。

他地域で同様な苦勞を繰り返さないように、町総連の一員としてご注意を喚起するため、現状をご報告する。

います。

火の元用心も家の周囲の清掃を心掛けることによつて予防効果が上がり、成城消防署から永年無火災の表彰をいただいています。防犯にしても街に見知らぬ人が目立つ家並みそのものが防犯、防災の役割を果たしています。



リサイクル ステーション

ゴミの分別収集の徹底、資源ゴミのリサイクル、永年続いている古紙回収等、行政の推進と相まって環境向上改善に良き協力と成果を得ています。最近では多忙な人が多いので労少なくして効果が上がる協力が得られるよう考慮しています。幸いに社会現象に対する会

員の方々の理解と反応は早いと言えます。自治会も空気の如く自然に、しかし住み慣れた地域の目に見えぬ連帯感があります。

世田谷区の環境整備部が著しく改善される中で、私どもの周辺も都立公園、街路整備、下水道工事、外灯設置等のインフラも一段と

向上し、今や最良の住宅環境が実現しました。成城から都立祖師谷公園への仙川沿いの遊歩道は、多くの住民に憩いの場を提供しています。私達はこの環境とそこに住む者の小さな倅せを永久のものとして維持して行きたいと願っているものです。私達自治会もご多分

に漏れず少子高齢化の真っ最中にありますが、子供世代の世話にならず自立している人が大半です。高齢になれば社会活動や地域への貢献も積極的に出来なくなりますが、余り無理せずそ

れなりの協力が出来ればと願っています。町会連合祖師谷地区の皆様もお元気で、ご活躍でございますので、共に多難な時代を無事乗り切つていきますよう祈るばかりです。

我が町成城団地

成城団地自治会会長 齋藤 篤

我が団地は小田急線成城学園前駅北口下車、都立世田谷工業高校方面に徒歩十五分ほどの所にある成城団地自治会です。一号棟から十三号棟三〇〇戸で構成されていています。入居以来三十九年目になります。自治会加入率は100%です。

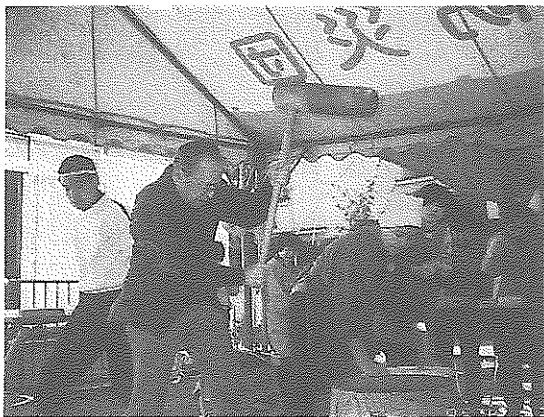
ところが毎年後継者には大変苦労しております。私達が定年を迎えた昭和六十一年から現在まで、以前にも二期務めていますので計十数年になります。ですが、後継者にはいつも苦労しています。自治会運営は、三役員、階段委員、OB有志の方々の協力により各事業を実施しています。

初代会長が後任選任には非常に苦労され、団地内を七ブロックに分け七名を選び、会長から会計監査まで決めます。建物の三十七個ある階段から同数の階段委員を選び、そこから五名の部長を選び、計十二名で任期一年で運営しております。

年間行事のうちラジオ体操、盆踊りは役員、委員、OB有志を総動員して、舞台、売店の設営、仕

入れ販売等すべて手造りで実施しております。その他スポーツ大会、餅つき大会、年末夜警、防災訓練は消防署、区防災課と訓練内容を打ち合わせて決めております。主として初期消火、応急救護訓練等を実施しています。

毎月第一日曜日に団地内全域を十三班に分けて清掃しています。清掃後は役員、婦人部員、OB有志で団地内の新聞、雑誌、アルミ缶、ポロ、ビン、段ボール等を車で回収し、業者に渡しています。また、毎月曜日に新聞、雑誌、ビン、

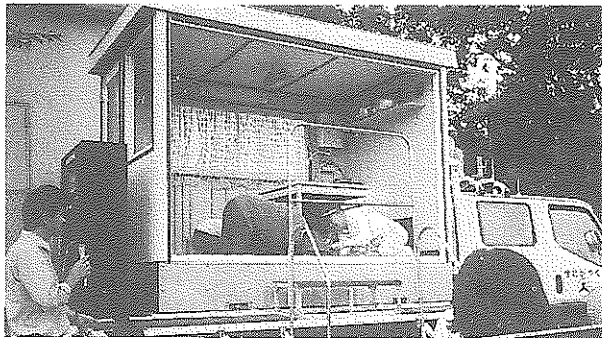


餅つき大会

アルミ缶を規定のカゴに入れて区の業者経由で回収しています。

成城出張所開設以来四年を迎えましたが、この間、きめ細かな地区のまちづくりを求めて活動を実施してきました。身近な町づくり推進員制度の時代も、会長職を引き受けていた関係上、現在の協議会でも推薦を頂き、引き続き会長を務めさせて頂いております。

一口に地区の町づくりと言っても、核家族化や高齢化社会の現在では、誠に難



起震車体験

しい問題が山積みしております。昨年までの地区カルテ作成にあたっては、委員の皆さんが全員で分担して成城のまちを歩き、問題箇所を発見し、内容を検討し、実施にむけて努力していま

す。早朝から駅前で放置自転車防止キャンペーン等を実施しています。まちづくり推進委員会として次の世代に誇れる環境を残すように、今後とも努力して参りたいと思っています。

ふれあいの街、災害に強い街づくり

フレール西経堂自治会

会長 駒井 澄子

私共の自治会は、住都公団に居住する人達(六六〇世帯)で構成されています。現在建て替え事業が進行中で、新しい会員も増え、自分達の街は自分達の手で、を基本理念に活動しています。

まず、ゴミ当番と週一回のリサイクル回収当番は、会員、非会員を問わず受け持ちます。清掃は月一回、定例日を設けて、毎回その時に参加できる人が二十数人、区道、広場、緑道のポイ捨てゴミ、空缶、煙草の

吸いながらなどひろい歩きます。

そして週三日の夜間パトロールは、二人一組で団地内の様子、ゴミ問題、今時の子ども達のことなど話し、親睦をはかりながら、居住者の安全を守っています。

自治会の呼びかけに応じた老若男女二十四人が拍子木を鳴らし、ひとり暮らしの高齢者を安心させています。防災訓練にも力を入れていきます。隔月に一回これも定例で、消防署の指導で初期消火、煙中避難、三角布

の扱い方、人工呼吸、炊き出し、ベランダ避難ハッチからの脱出、隣家との隔壁板を破つての避難、担架による上階からの救出など繰り返し訓練しています。

区道沿いの花壇、花木は四季おりおり居住者ばかりでなく、通りすがりの人達も楽しめるよう園芸に詳しい会員を中心に手入れをしています。

孤立しがちな高齢者を交流の場に出てきて頂くための老人給食会も月一回実施、近隣のお年寄りも参加するようにになり、六年目を迎えました。

自治会ニュースは、月三、四回発行して建て替え事業の状況、区からの情報、ゴミ問題、日常の中で起こったこと、行事の案内など高齢者にも読み易いように大きな字にするなど、工夫して発行しています。

外国の人も数家族入居していますので、季節毎に行事を組み、交流をはかっています。お花見、七夕飾り、ラジオ体操、敬老会、フリーマーケット、餅花造

り、豆まき、おひな様と多彩な催物で、小さな国際交流が生まれそうです。一年を振り返りながら、この原稿をまとめてみて、こんなに活動出来るのも、役員はもとより号棟委員、会員の皆さんの協力の賜と感謝いたします。



応急教護訓練



七夕かざり作り

放置自転車と

捨て看板のないまちに

喜多見上部自治会会長 河野 通敬

私たちの自治会の区域は、喜多見六丁目を中心に五丁目、成城一丁目、砧七丁目

そして大蔵五丁目の一部を含んでいます。会員数は全部で四八〇世帯ほどです。

地図で確認していただければお分かりになると思いますが、世田谷通りが区域を横断しており、北には成城学園に向かうバス通り、そして南には多摩堤通りがそれぞれ縦に抜けていて、喜多見地区の中では交通量の多い地域となっています。

しかし、鉄道の駅からはほど遠い地域でもあります。そんな地域の中で、常に気になっているのが、これらの通りや路地裏に放置されている自転車と、不動産



放置自転車クリーン運動 (後方が河野会長)

を中心とした各種捨て看板です。放置自転車は、歩行者の通行の妨げとなるばかりでなく、場所によっては災害

時などの緊急活動の妨害にもなり、その地域に住むものとしては心配の種です。また、捨て看板は何よりも町の美観を損ねるだけでなく、電柱に止めるための

針金が飛び出していて、自転車などで通行する人が思わぬケガをするとか、内容によっては子供達に悪影響を与えかねないとか、これも多くの問題を地域にもたらします。

どこの地域でも同じでしょうが、年に何回かの「放置自転車クリーンキャンペーン」と「性風俗関連屋外広告物撤去」を、喜多見出張所管内でも九つの町会・自治会が日程を合わせて一斉に行っています。毎回、びっくりするほどの放置自転車や、広告物が各会の拠点に集められているようです。

またこれとは別に、特に目につく場合は出張所に連絡を入れ、支所に通報してもらい、対応していただく場合もあります。放置自転車の場合、区道上など区が対応する場合は迅速ですが、都が対応する場所などの時は、区の担当者が再三依頼してやっと撤去されるなど、時間のかかる場合があると聞いています。スムーズな対応が望まれます。

私たちが行う、これらの定期的な一斉のクリーン作戦と、ポイント、ポイントでの対応とで、なんとかまちの美観が保たれているのかなと思っています。もし、こういう努力を中

断してしまつたら、後は文字どおり野ばなしとなって、見るも無惨なまちになってしまふことでしょう。そのためにも、これからも気を抜かず皆で対処していきたいと考えています。

わが町会活動の特色

大蔵住宅自治会会長 宮崎 春代

私たちの住んでいるところは、一、二六四世帯からなる五階建、三十棟の集合住宅で、多くの緑に包まれた大変恵まれた環境にある。

入居当初から自治会は結

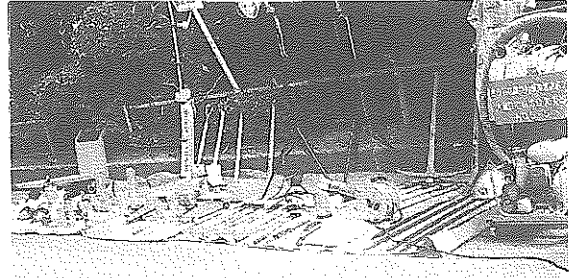
成され、すでに三十七年経過、現在は九四パーセントの加入率(任意)で自治会活動は推進されている。

先輩たちの活気溢れ



梯子車による救出訓練

た活動の数々、その年々の苦難や喜び、努力が限りなく歴史に刻まれている。その代表的で特に印象深い一つは、環境を守る立場で自治会を挙げての粘り強い行



町会所有の防災資材

民パワーの偉大さは、マスコミの反響と同時に各地から注目されたものだった。

やがて時は流れ、子供たちの減少と共に高齢化が進み、生活形態も大きく変化してきた。

しかし、些か衰えを感じても昔の原動力は、今なお継承されているものと信じる。

其の一つが防災活動である。

政(都)への働きかけが格別に輝いた「ボウリング場建設阻止」(四十七年)の運動である。あの当時の住

五年前に発足されて以来、休むことなく、しかも、積極的な訓練の連続である。部員は三十数名ですが、集合住宅特有の訓練をと十分

検討した上で、まだ記憶に新しい阪神大震災での大惨事を教訓にしながら、特に老人、身障者の弱者にとつての対応を試み、タンカや梯子車による救出訓練をはじめ、仮設トイレ設置訓練、湧水や仙川用水を利用しての放水訓練、緊急夜間訓練、更に防災用品を幅広く(約二〇〇万円)整えた中で、無線機(四台)による通報、伝達訓練、毎年炊き出し(三十kg)を含めての実施訓練と積み重ねで、防災意識の高揚と有効活用之余念なく張り切っている昨今である。

其二「ふれあい給食」誕生

有志の方々の集まりで「大蔵ふれあいの会」が結成され、この会の企画で平成七年十一月「ふれあい給食」をスタートさせた。

住宅内の高齢化が急速に進む中で、六十五歳以上の一人暮らしのお年寄りが非常に目立ってきた。

とかく室内にこもり勝ちなお年寄りを、如何に表に誘い出すかの難題を民生委員の方を中心に努力され、結果、第一歩として滑り出したのが、先ず、体をほぐす健康体操ではじまり、折

の十二号棟から二十二号棟、約三〇〇世帯が対象となっている。

私自身の入居は、昭和五十年九月である。団地が出来た頃の世の中は、東京オリンピック開催に向け東京二十三区内は一般道路、高速道路、新しい建物等の工事が急ピッチで進められていた時であった。

我が団地は、環状八号線

烏山地域

団地の高齢化

都営八幡山団地自治会

会長 松永安洋

都営八幡山アパート団地は三十棟からなり、昭和三十六年(一九六一年)

から入居が始まったと聞いている。私の担当する都営八幡山団地自治会は、団地

の開通により団地が分断され、同一団地ながら八幡山、粕谷、行政区分も上北沢出張所、上祖師谷出張所に分かれてしまった。会員諸兄が入居された当時(昭和三十八年)は、二十代から四十代の人々が多く、昭和五十年半ばまでは団地生まれの子供も含めて、多数の子供が賑やかに遊んでいた。

しかし、入居以来三十四年を経過して改めて振り返ってみると、御多分にもれず公営団地住宅の高齢化という避けられない現実になつてしまいました。自治会では毎年敬老の日にお祝い行事を実施しています。が、六十五歳以上の方の自己申告という形で知る範囲では一七〇名位である。高齢化率としては、烏山地域

内町会、自治会の中で二番目の高率になっている。



敬老会の情景

ひとり暮らしの方については、定期的に地区民生委員の方が順次訪問して、現状の把握に努めてくれています。高齢化による自治会活動の沈滞化を防ぐため、自治会主導による団地内環境整備、八幡山アパート団地（一〜十一号棟）との合同防災訓練、消火隊の結成訓練等の活動を実施しています。

今後の目標としては、老若男女が一緒に楽しみ

るようなイベントの実施を計画しています。国全体の高齢化の中で町会、自治会



谷中橋の三橋あり、此の橋は上祖師谷自

ら

我が自治会のながれ

祖師谷橋自治会会長 原島 正治

の果たす役割りは、今後重要な問題になってくるのではないかと思います。

現在の自治会は、北は烏山駅南から東京都祖師谷公園、成城境給田町の南西にある調布市入間町で、上祖師谷自治会は一丁目〜七丁目の広域である。昭和三十五年の田畑埋立造成

治会と交流の大切な橋です。当自治会は仙川を挟んで中心より東寄りにあり、東は二丁目的一部、西は六丁目的一部で、在住世帯数は、一般世帯は二七〇、アパー

ト等約三〇〇世帯、小さな地域での自治会で役員班長三十名で構成されているが、如何にして会を盛り上げることかという事で、心痛が納まることがない。

秋の神明社祭礼には自治会総出で、神酒所造り。神輿、太鼓を迎えて飲み物おでん等、子供にはお菓子、冷たい飲み物を接待。秋には親睦を兼ねて日帰り旅行で、参加者に楽しく喜んでいただく一日となっております。

私の見た烏山の今昔

烏山上町会防犯副部長 菅原 鋭

私が初めて京王線に乗って当地千歳烏山駅に降りたのは約四十年前のことになる。その頃の烏山駅は人影もまばらで、まことにこじんまりとしていて、ちょう

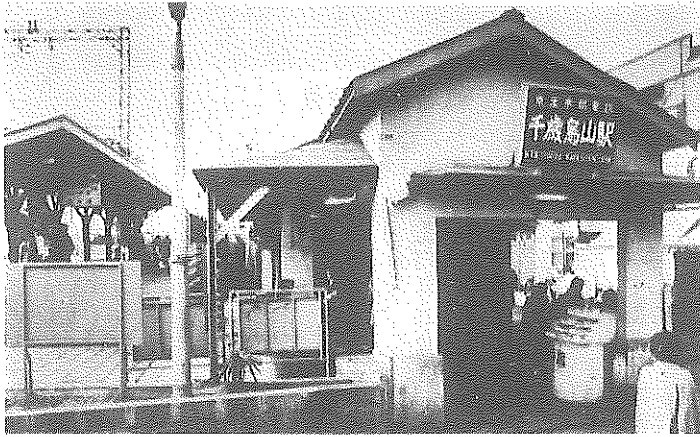
ど田舎の駅舎と言った感じであった。駅前通りは狭く左側に小学校、右側に民家をはさんで商店や医院などがあり街角には自転車店、片側にミ

ルクホールがありその目先に交番があった。それは現在と変わらぬ位置である。更に北に行くにつれ畑・竹藪・雑木林の中に曲がりくねった道路が出来ていた。その辺はもう武蔵野そのもののように思えた。少しずつ宅地用に整地が始まっていて竹藪の跡に竹の子がよつきり顔を出したりしていた。

道なりに樺・橡の木木立がならび、広々としたキヤベツ畑があり、藁葺屋根の農家が散在していた。

夏になると、子供達がカブト虫を取ったり、小川のような用水堀でザリガニを取り、木登りなど戸外での遊びには恵まれていた。蛇や蛙の到来も今となつては懐かしい限りである。

当時の生活環境は、水道の施



昭和30年代初めの千歳烏山駅



昭和30年代初めの甲州街道烏山交差点



平成9年11月の旧甲州街道烏山交差点(上図と同一場所)

設がなく、井戸水を使い、生活排水は庭の隅に穴を掘りそこに流れるようにした。燃料は薪、石炭、練炭などであった。

ある時友人が訪ねて来て「ここが東京か」と驚いていたが、しかし、私はかえって東京にいながらにして澄んだ空気と太陽に恵まれ、武蔵野の静けさも有り難く、しかも都心に近い町である烏山を自負していたし、更に北には小京都と言われる

寺町が存在していた。

古老の話によれば、関東大震災後都心から移転してきたもので、町には見られない幽玄なたたずまいであった。今では烏山の名所にもなっている。

時がたち、昭和三十九年東京オリンピックを契機として主な道路が舗装され、烏山バイパスが出来急速に車も増え、人口も増加した。駅前通りには高層ビルが建ち始め、人口が増えるに

従ってマンションが建ち、やがて此処彼処にスーパーやコンビニエンスが見られるようになった。

このようにして烏山は大きく変貌した。世田谷区の記録によれば、昭和四十五年の人口は三六、六〇〇人ということであったが、平成九年六月一日現在人口一〇〇、七二〇人ということである。

さて、車の増加により多くの問題が出て来たが、舗

装された時に植えられた並木も今は大きく育ち、五月の新緑の美しさは目を見張るものがあり、多くの木々は四季を楽しませてくれる。

近年ガーデニングと言うか草花を窓辺に飾ったり、家々から木々の緑や美しい草花が多く見られるようになった。自然を愛し、烏山を愛して住む人々の気持が伝わってくるような昨今である。

町総連ニュース

▼七月十日

常任理事会、理事会、総会

- 一、平成八年度事業報告
- 二、平成八年度決算報告
- 三、平成八年度監査報告
- 四、平成九年度事業方針案
- 五、平成九年度予算案

以上が提案され、原案どおり承認された。

六、役員の変更

一面記載のとおり新会長に白石博が就任、三田隆真は最高顧問に就任、副会長人事はつぎのとおり

- 安田憲吾 (世田谷)
- 渡辺三郎 (玉川)
- 高橋重信 (砧)
- 倉本俊幸 (烏山)
- 常任理事 (十名)
- 神保充夫 土橋 賀
- 宇田川豊治郎 宗 晴
- 大平一郎 飯田恭次
- 原田義保 加賀見貞夫
- 大森一三 池亀一夫

会計

中根一男 青山春治

監事

遠藤孝夫 木村新平
甲斐田治郎

ついで永年勤続者二五名の表彰が区長はじめ来賓多数臨席のもとに行われた。

▼七月十七日

東京都議会議長熊本氏と面会

一、世田谷清掃工場早期建替への件

白石会長、倉本副会長、宇田川常任理事出席

▼七月二十四日

東京都町会連合会常任理事会

一、町会に対する区の対応についての調査の集計結果の件

二、東京都実施町会アンケート結果の件

三、東京都と東京都町会連合会との連絡会(都知事との懇談会)の件

四、宿泊研修会の実施の件

白石会長出席

▼七月三十日

区議会各会派へ新任の挨拶

三田前会長、白石会長、渡辺・高橋両副会長

▼八月二十一日

常任理事会

一、まちづくり中央会議の件

二、理事会(七月十日)における提案の件

三、移動常任理事会の件

四、研修委託料の件

五、世田谷清掃工場の署名活動の件

六、町総連情報誌の件

七、町総連役員懇談会の件

八、東京都町会連合会常任理事会の件

九、学校協議会の件

▼八月二十九日

第四回エイトライナー促進大会

北区役所ホクトピアにおいて開催された。23区の東部地域(足立・葛飾・江戸川の三区で構成)でエイトライナーと同様に環状公共交通の実現をめざしている「メトロセブン促進協議会」と連携

しながら早期実現を図ってゆくことが承認された。

また二〇〇〇年に予定されている運輸政策審議会

で採り上げられるか否かが、この計画の命運を分かつので、ここ一、二年は準備段階として最も大事な時期であることが確認された。

出席者 三田最高顧問、安田、渡辺、高橋、倉本副会長、加賀見常任理事、上保理事

▼九月三日

交通安全幹事会

一、平成九年度秋の世田谷区交通安全運動実施要領(案)の件

二、平成九年度秋の世田谷区交通安全運動実施計画書(案)の件

▼九月四日

事務局出席

町総連だより編集会議

情報誌第七号のテーマ等の件

▼九月五日

検討委員会

一、規約の一部変更の提案の件

二、移動常任理事会の件

▼九月九日

常任理事会

行政と役員との交流会

四川賓館

白石会長、高橋副会長、土橋・宇田川・大平・大森常任理事

▼九月八日

東京都知事との懇談会

一、古紙回収等リサイクルの件

二、地域産業、商業の活性化の件

三、制度改革の件

四、東京都からの報告事項

白石会長、渡辺副会長出席

▼九月九日

交通安全協議会

一、平成九年度秋の世田谷区交通安全運動実施要領(案)の件

二、平成九年度秋の世田谷区交通安全運動実施計画書(案)の件

白石会長出席

▼九月九日

常任理事会

行政と役員との交流会

四川賓館

▼十月三日

正副会長会

一、町総連の運営の件
二、規約改正等の件
三、移動常任理事会の件
四、新年親睦交流会の件

五、平成十年年度の総会の件

▼十月十五日

杉並区と移動常任理事会
について打ち合わせ

事務局出席

▼十月二十日

エイトライナー促進協議
会総会

ブライトホールにて
開催。

町総連会長交替に付随
する役員改選について計
画促進のため、署名運動
を実施することが提案さ
れ、町総連としては地域
の事情もあるので、地域
町連に持ち帰って地域単
位で可能な限り後援する
こととした。

出席者
白石会長、安田、渡辺、
高橋、倉本副会長、加賀
見、池亀常任理事、上保
理事

▼十月二十八日・二十九日
東京都町会連合会宿泊研
修会

一、都区制度改革の件
事務局出席

▼十一月七日
町総連だより編集会議
情報誌第七号の校正

▼十一月二十一日

東京都町会連合会常任理
事会

一、東京都との連絡会の実
施結果の件

二、宿泊研修会の実施結果
の件

三、全国自治会連合会大会
の参加結果の件

四、新年懇親会の開催の件
事務局出席

▼十一月二十七日
常任理事会

一、世田谷区防災協議会の
件

二、移動常任理事会の件

三、町総連の事務所(室)
の件

四、町総連情報誌の件

五、平成十年年度の総会の件

六、新年親睦交流会の件

七、地区町会連合会の事務
運営費の支給の件

八、東京都と東京都町会連
合会との連絡の件

九、東京都町会連合会宿泊
研修会の件

十、地区町会・自治会連合
会への加入の件

を促進するための陳情

▼十二月二日

町総連だより編集会議
情報誌第七号の校正

▼十二月十五日

検討委員会

一、町総連規約第五に「表
彰に関すること」を新し
く入れるべきではないか
という提案があったが、
第十章補足第四十条(細
則の制定)の内容と、昭
和五十七年四月一日制定
平成元年四月一日一部改
正の「表彰規程」によっ
てカバーされているとい
うことになった。

出席者
白石会長、土橋、宇田
川、大平、大森、加賀
見常任理事、渡辺、倉
本副会長

二、移動常任理事会の件

編集後記

編集会議で各連合町会、
すなわち各出張所単位で
一名の執筆を、と呼びか
けて三度目になるが、今
回漸く二十七地区中二十
六地区の原稿が揃い、同

時に前からお願いしてい
た写真が全部添えられた
ことで、はじめて目標で
あった二十四頁建てを達
成することができた。

これは本号の第一回の
編集会議に当番出張所長
(今回は等々力出張所加
藤所長)を招いて各町会
への呼びかけ、督促をお
願いしたことによるとこ
ろが多い。公務の傍ら、
気持ちよく協力して下さ
った各出張所長さんに厚
く感謝申し上げます。

こうして集まった原稿
を見較べると、特に防災
訓練の写真が圧倒的に多
いのが図柄的には気にな
るところであるが、内容

を読み合わせていただくと、
それぞれに心細やかな工夫
が凝らされていることが分
かり、皆様も納得して下さ
ることと思う。

募集原稿については一応満
足できる状態になったが、
毎回申しあげているとおり、
掲載記事に対する質問や、
反応がもつとあれば、我々
同じ町会長仲間として、お
互いに「頼りになる」情報
誌となると思うので、奮っ
て投稿賜りたい。

成城の高橋さんからは長
い間のトラブルと、大きな
代償を皆さんが再び味わ
うことのないように、という
お気持ちから投稿をいただ
き、感謝します。(W)

町会長異動 他

○烏山地区町会・自治会連合会
新会長 山田 雅 則 (烏山上町会)
旧会長 池 亀 一 夫 (給田町会)

○砧地域町会・自治会連合会
石井戸会
新会長 二 反 三 徳
旧会長 鹿 島 新 吉

○上野毛地区町会自治会連合会への加入
都営野毛アパート自治会
会 長 羽 田 圭 二
121 世帯